

2023年度コーチカンファレンス

タックルの高さに関する試験的ガイドライン 導入の経緯と各国の状況

講師：田中 勝悟
(ハイパフォーマンス部門 ハイパフォーマンス戦略グループ)



**JAPAN RUGBY
FOOTBALL UNION**

本日の流れ

1.試験的ガイドライン導入の背景と目的

2.各ユニオンの状況

3.効果検証について

試験的ガイドライン導入の経緯

2023年5月11日

ワールドラグビーが各ユニオンに対し、タックルの高さを下げる試験的ルールを推奨することを承認

74%

頭部外傷の74%は
タックルエリアで発生

70%

タックルエリアで発生
のうちタックラーに起因する割合

4.2倍 ↑

タックラーの頭が
ボールキャリアーの胸骨より上に
位置する際の脳震盪リスク

64% ↓

試験的ルール導入により
頭部同士のコンタクトが減少

23% ↓

試験的ルール導入により
脳震盪が疑われるケースが減少

- 2015年
- 脳震盪をいかにへらすか
- 脳震盪の発見が課題　そこから予防へフォーカス
- リスクはゼロにできない
- ゲームの様相を変えることが目的ではない　結果として変わることはある
- フィジカリティーを減らすことが目的ではない
- リスクを減らすことが目的
- 変えることのコストとベネフィットのバランス（リスク減少とゲームの変化）
- エリートでは、18脳震盪パー1000時間　10試合で7脳震盪　コミュニティーは10試合で3脳震盪
- 選手個々のリスクはエリートのほうが高い、総合試合数、総選手数を考えると、集団としてリスクにさらされる選手数はコミュニティーのほうが多い

試験的ガイドライン導入の目的

海外での研究によると、10試合あたりの脳震盪の平均発生件数は、

エリート
7件

コミュニティー
3件

目的：ヘッドコンタクトを減らし頭部外傷のリスクを低減すること

- エリート選手とコミュニティー選手の母数を考慮すると、リスクにさらされる選手の総数は、コミュニティーのほうが圧倒的に多い
- リスクをゼロにはできない
- 厳しくペナルティーをとり、ゲームを様相を変えることが目的ではない
- 変えることによるコストとベネフィットのバランスが重要

試験的ルール導入 各ユニオンの状況

| ユニオン | タックラーの義務 | ボールキャリアーの義務 | 対象 | 導入時期 |
|----------|------------------------------------|---------------------------------|---|-----------|
| フランス | ウエストより下へのタックル ダブルタックルは禁止 | コンタクト時に頭を下げてはならない | 男子：Federale 1を除くすべてのコミュニティラグビー 女子：Federale 1を含むすべてのコミュニティラグビー | 2020年 |
| アイルランド | 胸骨より下へのタックル | 変更なし | URC, Women's interprovincial matches, Celtic Challengeを除くすべて | 2023年7月1日 |
| イングランド | 胸骨より下へのタックル | 肩と頭は臀部より上 コンタクト直前で頭を下げてはならない | Men's & Women's Premierships & Cups, RFU Championship & Cupを除くすべて | 2023年7月1日 |
| スコットランド | 胸骨より下へのタックル | 変更なし | URC, Super Series & Celtic Challengeを除くすべて | 2023年7月1日 |
| ウェールズ | 胸骨より下へのタックル | 肩と頭は臀部より上 コンタクト直前で頭を下げてはならない | URC, Welsh Premiership, Celtic Challengeを除くすべて | 2023年7月1日 |
| ニュージーランド | 胸骨より下へのタックル (セカンドタックラーは肩より下) | 変更なし（コンタクト時に頭が下がった場合はHPCでの軽減要因） | | 2023年2月1日 |
| 南アフリカ | 胸骨より下へのタックル 下肢へのタックルは明確なバインドが必要 | 水平より下へ頭からのコンタクトは禁止 | すべてのアマチュアクラブ、スクールレベル | 2024年4月 |
| オーストラリア | 胸骨より下へのタックル | TBC | TBC | 2024年 |
| アルゼンチン | 胸骨より下へのタックル | 肩と頭は臀部より上 コンタクト直前で頭を下げてはならない | TBC | 2024年1月 |
| イタリア | タックルゾーン 膝から臀部 | 変更なし（TBC） | レベル、年齢別に段階的導入 | 2022年から |

競技規則9.13の試験的変更

変更前

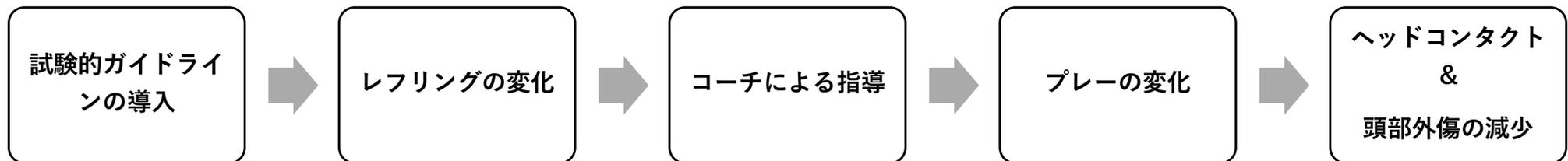
プレイヤーは、相手側プレイヤーに対して、早く、遅く、または、危険な形でタックルしてはならない。危険なタックルには、肩の線より上へタックルすること、または、しようとすることを含むがこの限りではない。タックルが肩の線より下から入ったとしても同様である。

変更後

プレイヤーは、相手側プレイヤーに対して、早く、遅く、または、危険な形でタックルしてはならない。危険なタックルには、**胸骨**より上へタックルすること、または、しようとすることを含むがこの限りではない。タックルが**胸骨**より下から入ったとしても同様である。

今後について

効果が表れるまでのプロセス



効果検証

- 導入前のシーズンと導入後のシーズンでの比較
- ワールドラグビーの世界的な研究にも加わり、外部研究者を交えてゲームを分析
- 適切なタイミングで、関連競技規則の変更の可能性も視野に検討を行う

ご視聴ありがとうございました